



1月1日

平成31年

発行

山田宏よい国後援会 機関紙



2つの「保障」を立て直し、国民の安全安心を守り抜く。参議院議員 山田宏

皆様には新しい年をお元気にお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。本年もどうかよろしくお願いたします。

「己亥」は「乱れを正す」年

今年の「己亥(つちのえ・いぬ)」の年は、どちらの字にもクサクカムリをつければ「茂」で、「繁茂」の年。発展の一方で陰りや乱れ(矛盾や問題)も生じる年でした。

「己亥(つちのえ・いぬ)」。「己」は「整える」で、昨年までに生じた「乱れを正す」年です。そして「亥」



平成30年10月4日 辞令交付記念撮影(官邸)

は木偏をつけると「核」で「勢い」を示すので、イノシシのような「勢い」を正しい方向に向ければよいが、間違った方向にいくと、翌年の「庚子(かのえ・ね)」さらに翌翌年の「辛丑(かのと・うし)」が、大変「辛い」年となるので、今年はとてども大事な年になります。

世界は「米中対決」の時代へ

昨年の年初に私は、世界が「戦後」という時代の分岐点にあると述べましたが、昨年10月4日のペンス米副大統領の「現政権の対中政策」と題した40分間の演説は、世界が「米中対決」の時代に突入したことを示すものでした。

演説の中で、対中貿易だけでなく、経済、軍事、外交、人権、そして米国内政治への干渉など、中国のこれまでの全ての振る舞いを、「公平、公正、互恵、そして国家主権の尊重」という価値に反すると強烈に批判し、中国政府がこの姿勢を改めない限り、「米国は脅しに絶対には屈しない」「我々は恐れぬ」「(中国の試みは)必ず失敗する」など、ペンス副大統領は繰り返し強く警告を発したのです。

そして「過去の(米国)政府は、中国のこれまでの振る舞いを見て見ぬ振りをして、結果的に彼らに担ってきたが、それももう終わりだ」と述べ、「我々は最強の軍事力をさらに増強する」「中国への関税を倍にすることも考えている」と、中国との全面対決の姿勢を鮮明にしました。

世界的に著名な戦略家であるエドワード・ルト

ワック氏は、「この米中対立は、かつてナポレオンやヒトラーに世界が対したように、中国の共産党政権が倒れるまで続くだろう」と指摘しており、これからの世界は「米中対決」という新たな時代の中で、新たな対応を模索していくこととなります。

「安全保障」は「制空権」から「制脳権」

そんな中、私は昨年10月の内閣改造で防衛大臣政務官に就任し、岩屋防衛大臣を補佐するわが国防衛の重責を担うことになりました。そして昨年末には、今後10年間の防衛力整備の指針となる「防衛大綱」と、5年間の具体的な計画である「中期防衛力整備計画」が閣議決定されました。

わが国周辺の安全保障環境は、中国の不透明な大軍拡、北朝鮮の核ミサイル、活発化するロシア軍など、大きくしかもスピーディに変化しており、これまでの延長線のやり方では、わが国の安全が保てなくなっています。

新しい防衛大綱では、従来型の「制空権」を争う陸海空の戦い方から、ミサイルや艦船や戦闘機を動かしている電脳を制御してしまう「制脳権」を争う戦いを組み合わせ、サイバーや宇宙領域や電磁波などの分野での研究開発と体制整備を加速することになりました。

一方中国の戦闘機や爆撃機、空母や潜水艦が、古海峡を通過して東シナ海から太平洋に進出するケースが年々増加しており、爆撃機が紀伊半島に接近したという事案まで発生しています。このため太平洋側の防衛力、とりわけ相手国の戦闘機や潜水艦への対応も急務となっており、広い海域で自衛隊機が発着できる基地が硫黄島しかないなど、防衛体制の即応性といった点で大きな課題があり、新たな対応が必要となっています。

「社会保障」も「予防」重視

安全保障だけでなく、わが国はますます進む人口減と少子高齢化の中で、人口増を前提とした社会保障も存続の危機に直面しています。日経新聞による医師1000人調査では、その半数以上の医師が、「このままだと国民皆保険制度は崩壊する」と考えているという衝撃的な結果が生まれました。

「いつでも、どこでも、誰でも、いい医療や介護を受

けられる」というわが国独自の国民安心の制度を維持していくためには、「なるべく病気にからず、かつても重篤にならず、寿命まで健康に生きられる」よう、今こそ疾病予防や介護予防に国や地域の政策の重点を置いていかなければなりません。

その点、国の年間の経営基本方針とも言える「骨太方針」に、2年連続で「口腔の健康は全身の健康につながる」と記され、さらに昨年11月にまとめられた首相の諮問機関である未来投資会議の「経済政策の方向性に関する中間報告」でも、「重症の歯周病を放置すると、糖尿病が発症する可能性がある」として「歯科健診の機会の拡大」などをあげ、健康政策としての歯科口腔医療に焦点が当たり始めました。

国民の「安全安心」を守る！

いまわが国は、「戦後」変わらないと考えていた「アメリカによる平和」の下での「安全保障」と、人口増が前提の「社会保障」という2つの国民の安全安心の「保障」が、新しい時代の大きな挑戦を受けています。そしてこの2つの「保障」は、これまでのやり方では存続自体が困難になってきています。

私は、これからも皆さんの安全と安心を守り抜いていくために、「安全保障」と「社会保障」という2つの「保障」を立て直しにしっかりと取り組んでいきたいと決意を新たにしています。



平成30年12月2日 海賊対処行動水上部隊出国行事(呉基地)

自衛艦旗を「降ろせ」という、無礼かつ非常識な韓国

昨年10月に韓国済州島で開催された国際観艦式に際し、韓国政府がわが国の自衛艦旗である「旭日旗」の掲揚自粛を求め、海自が護衛艦の参加を取りやめたことはまだ記憶に新しい。



平成24年度自衛隊観艦式
http://www.mod.go.jp/msdf/formal/kankan/2012/gallery/20121008.html

国籍を示す自衛艦旗としての「旭日旗」は、自衛隊法で定められ掲揚を義務づけられているものです。また国際法上も軍艦がどの国に属するかを示す外部標識に当たるもので、これまで広く国際社会で認められ、中国も含めどの国からもこのような扱いを受けたことはありませんでした。この韓国政府の行為は、国際常識から見ても常軌を逸したものと云えます。

これは、最近一部の韓国の学者が「旭日旗は、ナチス旗と同じ『戦犯旗』(このような用語はそもそも存在しない)『だ』という根拠のない感情的な主張をし始めたことが背景にあります。しかし、ナチス旗の『鉤(かぎ)十字』はナチス党という党の党旗で、いわば共産党の赤旗と同様のものです。一方ドイツ国軍は、戦前も

山田宏(やまだひろし)プロフィール

参議院議員(自由民主党)
防衛大臣政務官 兼 内閣府大臣政務官
所属委員会
外交防衛委員会
沖縄及び北方領土に関する特別委員会

昭和33年(1958年)1月8日生まれ(61歳)
京都大学法学部卒業。松下政経塾第2期生。
東京都議会議員(2期)
衆議院議員(2期)・杉並区長(3期)

『世界に誇れる日本』を創るため、山田宏は日々活動しております。そのためには、皆様のご支援が必要です。ぜひ、山田宏の活動を支えてください。

山田宏を応援してください

- 「山田宏よい国後援会」にご入会ください。
会費:年額 10,000円
- 自由民主党(山田が支部長を務める「自由民主党東京都参議院比例区第二十二支部」)党員になってお支えください。
満18歳以上、日本国籍を有する方が対象です。
党費:年額 4,000円(家族党員は2,000円)
⇒ご協力いただける方は、事務所までご連絡ください。
・機関紙を送付
・イベントのご案内
・メールマガジンの配信
・国会議事堂・議員会館などの見学の受付などの特典があります。

山田宏の日々の活動は、ホームページ、フェイスブック、ツイッターでご紹介しています
山田宏公式サイト:www.yamadahirosi.com
山田宏公式Facebookページ:
<https://www.facebook.com/yamadahirosi.page/>
山田宏公式ツイッター:@yamazogaikuzo

⇒ぜひチェックしてください!
上記などお問い合わせはこちらにお願いいたします。

山田宏 国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館1205号室
Tel.03-6550-1205 Fax.03-6551-1205

ドイツ軍は戦前戦後も同じ「鉄十字」



戦前:ドイツ戦闘機



戦後:ドイツ戦闘機

戦後も「鉄十字」が軍の主権のシンボルと定められ、わが国も「旭日旗」を戦前戦後通して軍艦旗として定め、どちらも国際社会から正当に認知されてきているのです。

どこの国でも、軍旗は軍のシンボルとして最大の尊重を受け、軍の誇りなのです。それを自分勝手な論理を振り回して、貶めようとする行為は国際法上も許されぬ行為であり、わが国が嚴重抗議をしたのは当然です。いま韓国は「旭日旗」だけでなく、そのように見えるデザインにさえも、世界中で「旭日旗は戦犯旗だ」と抗議活動を行っています。わが国としても、その二つ一つに対してしっかりと説明をして、このような不

損傷がすすむ「旧軍用墓地」、国の責任で修繕 ~「軍人墓地の乱れは、国の乱れ」と財務省に要請

昨年9月の台風21号で、大阪市にある旧真田山陸軍墓地(国有地)が、倒木や墓石の倒壊など大きな被害を受けたのに、その復旧が滞っていることが問題となりました。

山田宏は「軍人墓地の乱れは、国の乱れ」と考え、9月27日財務省に対して、速やかに旧真田山陸軍墓地の復旧策をとるよう申し入れると同時に、あわせて全国86か所ある旧軍用墓地の状況を調査するよう要請しました。

その結果、旧軍用墓地は旧陸海軍から旧大蔵省が引き継ぎ、そのうち44か所は財務省の所管で地方自治体に無償貸し付けをし、残りの42か所は地方自治体等に所有権を移譲しており、真田山も含め国所管の墓地で修繕を要する墓石や慰霊碑、そして納骨堂などが多数あることが判明しました。

そこで国では今後、修繕を必要とする工作物全てについて、今年から計画的に修繕するため、これまで年間300万円程度の予算を、5年間で5億円と大幅に拡充することになりました。旧真田山陸軍墓地については先行して修復していきます。



真田山陸軍墓地維持会HPより

山田宏よい国後援会 歯科部会にお入りください!

「骨太方針2017」に引き続き、昨年の「骨太方針2018」でもさらに充実した内容で歯科の重要性が記述されました。今後も「予防医療は口の健康から～歯科口腔医療の充実が全身の健康に繋がる」ことが広く深く浸透するよう、国政の場で働いてまいります。ぜひ、ご入会いただき応援いただけますようお願い申し上げます。

山田宏よい国後援会 歯科部会がスタート!

◆ご入会いただくこと
・講演会などイベントのご案内
・山田宏の活動報告会ニュースの郵送
など色々な企業を予定しています。
また会員専用相談窓口も設置しています。詳細のこと、その他何でもお気軽にご相談ください。
TEL 03-6550-1205
MAIL info@yamadahiroshi.com

総理への提言

1. 生涯を通じた歯科医療の充実
2. 入国者等に対する歯科口腔医療管理の推進
3. 施設関係者に対する歯科専門職

会費 10,000円
※ご入会費は年会費に含みます。

お申し込み方法
【入会申込書】には必要事項をご記入の上、事務局にFAX、Mailまたはご郵送にてお送りください。会費のお支払い方法、その他ご質問等も承ります。

国会見学など
お気軽に
お問い合わせください!



ご連絡は、
山田宏国会事務所
03-6550-1205
をお願いいたします。

先生方の現場の声を
お聞かせください。
**山田宏を報告会・
デンタルミーティングに
お呼びください**